留学報告書

～静宜大学での学びと成長～

静宜大学
国際文化学部（中期）

私は、台湾の静宜大学に約四ヶ月間留学しました。以前からアジア圏の文化に関心があり、大学入学後に受講した様々な講義を通じて、実際に海外で生活しながら文化を体験したいと考えるようになりました。また中国語を学習していく中で実際に中国語を使い、その言語を使う国の方たちと関わりたいと感じ、留学することに決めました。

留学の目標として、私は日常会話レベルの中国語を身に付けることと、異文化を理解し多様な価値観を身につけることを掲げていました。語学面では、日本にいる間は中国人や台湾人と実際に関わる機会がほとんどなく、中国語を使うことに対して不安を感じていました。そのため、留学を通してその不安を克服し、中国語で相手に自分の意見を伝えられるようになることを目標としました。また、異文化理解の面では、現在の日本には多くの外国人が生活しており、観光だけでなく就労のために日本を訪れている人も増えています。そのような人々と関わる機会が増えていくと考えられる中で、言語だけでなく文化や価値観の違いを理解することの重要性を感じるようになりました。

静宜大学の中国語の授業では日常的に使う表現から結婚式など改まった場面で用いられる表現を学びました。授業中は先生が順番に一人ずつ指名し回答をしていきました。最初は緊張や不安から簡単な単語さえ出てきませんでした。しかし、回数を重ねていくうちに中国語を話すことに慣れていき、自分の意見を簡単な中国語で述べる力をつけていくことができました。また、先生の話す中国語が聞き取れず内容を理解することができないこともありましたが、毎日予習復習を行い、分からない点は先生に積極的に質問をしていくことで少しずつ理解していくことができました。クラスには様々な国の人が在籍しており、授業中にそれぞれの国の文化や価値観を紹介し合い、国ごとの違いを知ることができました。自分が当たり前だと考えていたことが当たり前ではなく驚くことが多くありました。しかしこのような経験を通して少しずつ異文化に対する理解を深めることができました。また日本語学科一年生の台湾人学生と一緒に受講した会話の授業では初めて日本語を学ぶという学生も多かったため、私は中国語を使って台湾人の学生の日本語のサポートを行いました。この授業を通して、中国語での表現力、日常会話能力を向上させるだけでなく言葉を選びながら説明する力を身につけることができました。さらに台湾人学生に言語を教える立場を経験したことで、自分自身の中国語に対する理解も深めることができました。

生活面では四人部屋の寮で台湾人二名と日本人二名で生活しました。台湾人のルームメイトは日本語学科の学生だったため、中国語と日本語を交えながら会話をしました。台湾は日本と異なり外食文化なので、ほぼ毎日外で食事をしました。特に夜市はとても安いので様々な料理に挑戦することができ、日本では味わえない食文化を経験しました。また、静宜大学は台中の都市部から離れた場所に位置しているので、都市部に行くにはバスに乗る必要がありました。日本のバスとは違い台湾のバスは急発進、急ブレーキが多くバス酔いすることが多くありました。しかしこのような日本と違う生活習慣を経験することで、異文化に適応する柔軟性を身につけることができたと感じます。

私が留学していた静宜大学は、台中という台湾の中央部に位置しているため、休日は台湾各地に旅行をしました。インターネットで調べるだけでなく実際に台湾人におすすめの場所やお店を聞いて旅行をしたためより深く台湾を知ることができました。旅行を通して、台湾の人々はとても親切で、「どこから来たのか」などと声をかけられることが多くあり、台湾人の温かさや人との距離の近さを感じました。また、旅行先でいろいろな方と交流していくうちに自分の語学力がどんどん上達していくことも実感し、実際に言葉を話して学ぶ大切さを感じました。現地での会話を通して、教科書では学べない表現を多く身につけました。例えば猫空に行った際にはお店の方にお茶を淹れてもらったり、自分でお茶を淹れる体験をしました。台湾のお茶文化に触れるだけでなく会話を通して、お茶に対するこだわりを知ることができました。また、静宜大学では留学生向けに様々なイベントが用意されており、私はBBQや高美湿地、渓頭への旅行に参加しました。このイベントには色々な国の学生が参加しており、授業だけでは関わることのできなかった海外の友達を作ることができました。私は人見知りで、自分から話しかけに行くことが得意ではありませんでしたが、勇気を振り絞って話しかけてみるとみんな快く会話をしてくれました。この経験から、ずっと受け身の姿勢でいるのではなく自分から行動することの大切さを学ぶことができました。

今回の留学を通じて、語学力の向上だけでなく自分自身が大きく成長することができました。これまで私は一つの考えに固執する性格でしたが、台湾でいろいろな異文化や価値観に触れていくことで、様々な面から見て物事を考えられるようになったと感じています。また台湾でのゆったりした生活の中で、私のせっかちだった性格が和らぎ、心に余裕をもって行動できるようになりました。

今後、大学での学習の際には、今回の留学で培った多角的な視点から物事を見て様々なことを深く考える姿勢を大切にしていきたいと考えています。また、台湾の学生にはとても仲良くしてもらい、授業や生活面などたくさんの場面で助けてもらいました。このことから人とのつながりの重要性を再認識することができました。名古屋学院大学にも留学生

がいるため、留学生に積極的に声をかけ、困っている学生をサポートするなど人との交流を大切にしていきたいです。一方で台湾での生活を通して自分の言いたいことがうまく言えないこともあり、語学力の低さを実感しました。その悔しさを糧に今後も学習に励み、もっと成長していきたいです。将来の仕事においても、学生生活以上に関わる人が増えてくるので、様々な価値観を尊重したコミュニケーションを行い積極的に挑戦していきたいと考えています。











